

## 第5回蓮田市政策研究会議 会議録

開催日時	平成27年8月31日(月)	(開会)	午前10時10分
		(閉会)	午後 0時00分(正午)
開催場所	蓮田市役所 301会議室		

### 議 事

#### 1 開会

#### 2 会議

- ・政策研究アドバイザーの牧瀬稔先生をお招きして、政策研究の進め方や提言に向けてのアドバイスをいただく。
- ・ディスカッションの中でいただいたアドバイスは、以下のとおり。

・事業提案の際は、「6W4H」を十分に意識する。これにプラスαとして、それぞれのメリットとデメリットについて検証をする。

Why…なぜその事業が必要なのか

Where…どこで事業を実施するのか

What…どんな事業を提案するのか

When…いつ事業を実施するのか

Who…誰が実施するのか

Whom…誰を対象の事業を実施するのか

How…どのように事業を実現するのか

How Many…事業の数量はどうするのか

How Much…いくら予算で実施するのか

How Long…事業の実施期間はどうか

・最終到達点を決め、メンバーで共有すること。これが出来ているのが「チーム」で、出来ていないのは、ただのグループに過ぎない。

まだ、方向性が決まっていないため、早急に最終目標を設定する。

・市だけでは出来ることも限度があるので、県・国などとしっかり役割分担をすること。

・何も特色が無いのは、逆にチャンス。何でも出来るのだから何でもやってみればよいのでは。

・蓮田なのに、「ハス」は無いのか。

「梅ヶ丘」という名称でも以前は「梅」が無かったが、今ではいっぱいになっているという地域もある。

・企業とのタイアップも出来る場所があれば、やってみたらよいのではないかと。  
(鎌倉パスタなどの例があがる)

・例えウリになるものが無くても、知名度向上につながる対外的アピールはどんどんやっていった方がよい。ただし、早急にウリになるものを考える必要がある。

・お金をかけなくても、名物はアイデア次第で十分作れる。予算があるならなお良い。

・自治体職員は異動があるため、特定の個人に頼った施策は続かないものである。どうしても個人に頼らざるを得ない場合は、事業完了まで異動させない等、人事担当と連携して計画的に行う必要もある。

提案者は、5年異動させない場合や、事業完了まで専任させている自治体も多い。

・牧瀬先生から見た蓮田市のイメージ。

①土呂駅を過ぎた辺りから、田舎のイメージが強くなる。

②蓮田駅前に空き家が多く、事態の深刻さを物語っており、家賃補助等の検討も必要かもしれない。

③蓮田駅前にはドトールをはじめ店舗がいくつかあるので、商業的にはまだ可能性があるという見立てだと思われる。

- ・以下で、最終的な目標を検討する。

自然増が理想だが、蓮田市の場合、出生率増加のための世代が少なく、高齢者が多いため自然増は時期尚早と考えるので、「社会増」を狙う。

ターゲットは、20歳代後半から30歳代、新婚夫婦やこれから子育てをする層とする。

既存住民を引き留める施策と潜在住民を呼び込む施策を進めることになるが、どちらかと問われれば、潜在住民を呼び込む施策を重視することになる。

潜在住民をどこから呼び込むかは、①さいたま市 ②白岡市、上尾市 ③伊奈町、久喜市との順位が考えられるが、それぞれ施策次第ということになる。

当面の目標としては、まずは現在の人口減に歯止めをかけ、人口増に転化させることとする。

- ・次回は、牧瀬先生からのアドバイスをもとに、今まで出てきている提案を整理し、いくつかに絞り込んでいくこととする。

- ・牧瀬先生には、10月後半頃にもう一度お出でいただき、進め方の確認や提案事項についての具体的なアドバイスをお願いする。